

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 明治大学 経営学部 遠藤公嗣研究室
URL: <http://jasps.org/> TEL: 03-3296-2064 E-mail: endokosh@meiji.ac.jp
- ◇ 編集・発行 遠藤公嗣(代表幹事) 戸室健作(Newsletter 担当幹事) 塚原康博(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel:03-5206-7431 Fax:03-5206-7757 E-mail:jasps@worldpl.jp

《目次》

1. 第 136 回(2018 年度春季)大会自由論題報告、
テーマ別分科会報告の募集
2. 第 134 回大会(2017 年度春季)報告
3. 第 134 回大会(2017 年度春季)会計報告
4. 選挙管理委員会報告
5. 社会政策学会賞候補作の推薦(自薦・他薦)の
お願い
6. 2017 年度臨時総会報告
7. 会員状況の分析
8. 第 13 回社会政策国際論壇の報告
9. 2016-2018 年期幹事会報告
10. 承認された新入会員
11. 訂正

1. 第 136 回(2018 年度春季)大会自由論題報告、テーマ別分科会報告の募集

社会政策学会第 136 回大会は、2018 年 5 月 26 日(土)と 5 月 27 日(日)に埼玉大学で開催されます。春季大会企画委員会では、同大会で開かれる自由論題およびテーマ別分科会での報告を募集いたします。報告をご希望の方は、下記の要領でご応募ください。また、報告にあたって事前に、フルページの電子ファイルをご提出いただくことになっております。詳細に関しては、採択決定後に、分科会責任者や報告者の方々にご連絡申し上げます。なお、自由論題およびテーマ別分科会は 5 月 26 日(土)、共通論題は 5 月 27 日(日)となります。

(1)自由論題で報告を希望される会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、報告タイトル(日本語、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、氏名(ふりがな、英語)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、400 字程度の邦文報告要旨、英文アブストラクト、専門分野別コード(1.労使関係・労働経済、2.社会保障・社会福祉、3.労働史・労働運動史、4.ジェンダー・女性、5.生活・家族、6.その他)等の必要事項を記入のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募ください。

【自由論題報告応募・問い合わせ先】

hokoku2015jasps@yahoo.co.jp

担当委員 大西祥恵(國學院大学)、松田亮三(立命館大学)

また、論文・報告書・他の学会報告等のかたちで既発表の内容については報告できません。応募の段階で判明した場合は不採択といたしますのでご注意ください。

自由論題に応募資格があるのは、会員で、当該年度まで会費を納入されている方です。当日は、報告 25 分、質疑 10 分となります。

(2)テーマ別分科会の企画を希望する会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、分科会タイトル(日本語、英語)、分科会設定の趣旨(日本語 400 字程度、非会員を報告者に招聘するときは、招聘しなければならない理由を記入)と英文アブストラクト、座長・コーディネーターの氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、報告者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、E-mail アドレス、各報告の邦文報告要旨(400 字程度)と英文アブストラクト、予定討論者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)等必要事項を記載のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募ください。なお、テーマ別分科会の企画に応募資格があるのは、会員のみです。

【テーマ別分科会報告応募・問い合わせ先】

bunkakai2015jasps@yahoo.co.jp

担当委員 石塚史樹(東北大学)

以下は、自由論題とテーマ別分科会の応募に共通の注意事項です。

(3)応募は、原則として、学会ホームページからダウンロードした応募用紙に必要事項を記入し、添付ファイルとして、上記の E-mail アドレスにお送りいただくことになっております。なお、この方法による提出が難しい方は、春季大会企画委員長までご相談ください。

(4)応募用紙の「報告要旨」及び「分科会設定の趣旨」の「400 字程度」との字数をお守りください。記入の不完全なもの、

字数の著しく過剰なものや過少なものは、応募を不採択とさせていただきます。

- (5) 自由論題・テーマ別分科会の「報告要旨」及び「分科会設定の趣旨」のいずれについても、英文のアブストラクトを提出していただくことになっておりますので、ご注意下さい。英文アブストラクトには語数の基準は設けませんが、邦文の「報告要旨」や「分科会設定の趣旨」と同内容となるようにしてください。また、学会では英文の校閲は行いませんので、英文については、原則としてネイティブ・スピーカーによる校閲(機械翻訳ソフト利用は不可)を受けた上で、誤りや不適切な表現がないものを提出してください。英文アブストラクトは、学会の英文ホームページで公開されます。また、学会が発行する英文ニューズレターに掲載されます。
- (6) 応募にあたっては、応募時点の所属機関とポジションをご記入ください。大会プログラムには、原則として所属機関のみを表記しますが、院生の場合は所属機関とポジション(院生)を表記します。大会当日までに所属が変更となる方は、報告時のフルペーパーに新しい所属機関などを各自がお書きくださることで、変更にご対応ください。
- (7) 応募の締め切りは、2018年1月15日(月)です。締め切りは厳守です。その後の応募は不採択とさせていただきます。
- (8) 応募された方に対しては、遅くとも1月22日(月)までに応募用紙受領の連絡を行います。この時までには連絡のない場合はなんらかの事故の可能性がありますので、問い合わせ E-mail アドレス(あるいは下記の春季大会企画委員長宛)にお問い合わせください。
- (9) 応募の採択と不採択の結果については、春季大会企画委員会および幹事会で審査の上、2月下旬までにご連絡する予定です。
- (10) 第128回大会からフルペーパーは電子化されました。その目的は、フルペーパーの準備(大量印刷・送付)を行う報告者とフルペーパー管理(大量保管・移動、締切後や当日の対応、処分等)を行う開催校、双方の負担軽減です。期日までに提出できず、フルペーパーの電子化ができなかった場合には、会場で十分な議論ができないだけでなく、提出期限を守られた報告者との間で不公平が生じます。フルペーパーが用意されることで報告が成立するという点をご理解いただき、採択された場合は期日までにフルペーパーを提出されるようお願いいたします。

特にテーマ別分科会の申し込みにあたってコーディネーターの方は、必ずすべての報告者に、フルペーパーの提出の義務と締め切り日について説明し、了解を得ておいてください。「すべての報告者」には、分科会が招聘する非会員の方、実務家の方も含まれますので、ご注意ください。なお、フルペーパー

とは学会報告の内容を学会誌掲載の論文に準じて記述したものであり、既発表の論文・報告書等の転載は認められません。今大会のフルペーパーの提出締切は、5月8日(火)となりますので、提出日を勘案したうえ応募してください。

- (11) ご提出いただいたフルペーパーは、会員に事前にパスワードを送付し、そのパスワードを学会ホームページの大会フルペーパーのサイトに入力する方法で(つまり、インターネット上での一般公開という形を避けて)、大会前後の限られた期間にのみ、閲覧と印刷が可能になるようにします。自由論題およびテーマ別分科会で報告が採択された方は、5月1日(火)～5月8日(火)必着で、フルペーパーの電子ファイルを、担当委員(上述の担当委員とは別の委員となります)までお送りください。ファイル形式は、原則としてPDFファイルとします。ファイルの送付方法や送付先などの詳細については、採択決定後にご連絡いたします。
- (12) 自由論題およびテーマ別分科会で報告された会員は、大会での報告後、フルペーパーに改善を加えて、社会政策学会誌『社会政策』に投稿されることを、幹事会と学会誌編集委員会ではつよく奨励し期待しています。大会用フルペーパーは、その後の投稿を考慮してご執筆ください。なお、『社会政策』へ投稿する資格があるのは、会員のみです。
- (13) 応募された後で、応募を取り下げること(報告のキャンセル)は、原則としてできませんので、ご注意下さい。
- (14) 当日のプログラムは企画委員会が決定します。報告時間帯等については、複数の分科会にかかわっているなど登壇が重複するケース以外は、応募者からのご希望には応じられませんので、ご注意ください。
- (15) 報告希望の前に、学会費の支払いはお済みください。学会費に滞納がある場合は報告が許可されませんので、ご注意ください。
- (16) 共同研究の成果を報告する場合は、共同研究者の了解を取ってください。複数で報告する場合は、応募者のあとに共同研究者(会員・非会員は問いません)の名前をあげ、応募者とともに当日登壇する人に下線を引いて下さい。なお、当日登壇できるのは会員に限られますので、ご注意ください。

春季大会企画委員会委員長 榎一江
〒194-0298 東京都町田市相原町 4342
法政大学大原社会問題研究所
電話: 0427-83-2319(研究室直通)
Email: enoki@hosei.ac.jp

2. 第 134 回大会(2017 年度春季)報告

社会政策学会第 134 回(2017 年度春季)大会は、6 月 3 日(土)、6 月 4 日(日)、明星大学日野キャンパスにて開催された。両日ともに天候にも恵まれ、二日間で 314 名の参加者を得ることができた。

1. 開催校引き受けの経緯

平岡公一前代表幹事から 2017 年度春季大会開催の打診を受けたのは、ほぼ 2 年前のことである。当初その話は、東海大学の広瀬真理子会員にあったが、教室の確保が難しいとの理由で、明星大学に回ってきた。明星大学では幸い、創立 50 周年記念事業の一環として 500 人を収容できる大教室が建設されたばかりであったため、大会会場だけはなんとか確保できると判断し、経験不足は承知の上、お引き受けすることにした。

2. 大会開催準備

大会準備の過程において最大のネックとなったのは、日程の調整である。とくに 5 月、6 月は、オープンキャンパスや進学相談会が週末繰り返して行われ、また通信教育課程をもつ明星大学ではスクーリングもこの時期に集中する。このため、これらの学内行事と重ならないように二日間の学会日程を決めることは「針の穴に糸を通すような」至難の業であった。また、社会政策学会と会員が重複する他学会もこの時期学会開催を予定しており、それらの学会との日程調整も必要であった。ことに社会政策学会の日程に合わせ、労務理論学会の開催日を 1 週間繰り上げていただいた、諏訪東京理科大学の山縣宏寿会員には、この場をお借りしてお礼申し上げたい。

大会準備の過程でもうひとつ気になったことは、事務分掌に関する情報共有が不十分であった点である。なかでも、大会企画委員会と大会実行委員会との情報の共有は、円滑な大会運営にとって不可欠であるが、たとえば今回、共通論題資料の印刷と袋詰め作業の委託を誰の責任でどの業者に任せるかをめぐって、それぞれの委員会の長が過去の経緯を知らず、業者選定に手間取ってしまった。今後、このようなことがないように、幹事会を通じた情報連絡をさらに緊密にしていく必要があると痛感した。

3. 大会初日(共通論題)

共通論題が行われた大教室(32 号館 108 教室)と受付会場(28 号館 3 階ロビー)とが離れた場所にあったことで、会員の皆さまにご不便をおかけしたのではないかと心配している。要所所に学生を配置し、できるだけ動線を作るよう努めたが、学会員への案内掲示が足らなかつたという厳しいご指摘もあり、反省点とした。

なお、今回の学会は、東海大学の広瀬真理子会員ならびに高木俊之会員にも応援いただき、受付業務を東海大学チームが、また共通論題会場の管理と学内案内を明星大学チームがそれぞれ務めるという分業体制を敷いた。その意味で、134 回大会は明星大学と東海大学との共同開催といえるかもしれない。応援いただいた東海大学の両会員ならびにそのゼミ生にはこころより感謝したい。

午前 10 時から始まった「福祉の市場化を問う」と題した共通

論題は、当初会員の集まりが悪く、会場は閑散としていたが、午後に入ると大教室を埋め尽くすまで会員が集まり、盛況のうちに閉会を迎えることができた。

4. 懇親会

懇親会は、少ないスタッフで効率的に大会をマネージするため、あえて学内では行わず、多摩モノレールで 10 分の距離にある京王プラザホテル多摩に任せた。その分、例年に比べ懇親会費が割高となつてしまったことをお詫びしたい。だが、懇親会に参加された会員には、お一人当たり 500 円を明星大学の学会助成金から補助していることをここに申し添えておきたい。

懇親会の司会は、学会事務局長の塚原康博会員がご家族のご事情により欠席されたため、大会実行委員長の下平が急遽その代役を務めた。遠藤公嗣代表幹事からのご挨拶のあと、新たに名誉会員となられた小越洋之助会員が紹介され、また海外からのゲストを代表して、Heikki Ervasti 先生と Jooha Lee 先生がそれぞれ国際交流事業を記念したスピーチをされた。総勢 100 名を超える会員ならびに海外からの招聘者が懇親会に参加し、盛会であった。

5. 大会 2 日目(テーマ別分科会、国際交流委員会)

大会 2 日目は、28 号館 1 階の 5 教室に分かれて、テーマ別分科会と国際交流委員会を実施した。2 日目も、学内事情をよく知る明星大学チームが会場案内と教室管理を、また受付業務を東海大学チームが担うという形で大会運営をサポートした。

どの会場も大きな混乱なく、活発な議論が繰り広げられた、とうかがっている。ただし、コピー機が別の建物にあり、日曜日は施錠されていたこともあり、学会当日になってから発表資料のコピーを希望された会員には、対応できなかつた。またパワーポイントを使って発表される会員が USB を忘れたので貸してほしいと大会本部に現れる一幕もあつた。これらのケースについてはいずれも、大会運営の原則に沿つてお断りせざるを得なかつたことをどうかご容赦いただきたい。

社会政策学会を明星大学で開催するのは今回がはじめてであり、経験不足もあつて、多くの方々にご迷惑とご心配をおかけしたかもしれない。ただ、大きな事故もなく、無事終了できたことにいまはひとまず安堵している。遠藤公嗣代表幹事をはじめとする幹事の皆さま、とくに春季大会企画委員長の榎一江会員、同副委員長の鬼丸朋子会員には、大会準備の段階からいろいろと教えていただき、感謝申し上げる次第である。また 2016 年秋季大会の開催校を務めた同志社大学の埋橋孝文会員には、京都にうかがつた際に AC Planning の細矢幸子さんをご紹介していただいたうえに、その後も引き続きメールでいろいろとアドバイスを頂戴し、おかげで大きなミスを犯さずに済んだ。同じく深謝する次第である。さらに今回、このような貴重な機会を与えてくださった平岡公一前代表幹事には、社会保障研究所時代から続く変わらぬご厚情に感謝したい。

第 134 回大会実行委員長 下平好博

3. 第 134 回大会 (2017 年度春季) 会計報告

大会会計(円)

収 入		支 出	
学会より大会開催費として	¥1,500,000	AC Planning への支払い	¥968,882
書店の広告・出展料	¥102,000	AC Planning 旅費	¥49,436
事前振込み: 弁当代 (74 個)	¥79,920	AC Planning の振込料(通信費 1 万円の他に)	¥864
事後振込み: 弁当代(企画委 1 個+国際委 7 個)	¥8,640	学会手伝いのアルバイト代	¥358,198
事前振込み: 懇親会費(80 名)	¥480,000	弁当代(アルバイト分+配送料含む)	¥132,300
当日支払い: 懇親会費(31 名)	¥217,000	懇親会代金(@¥6500×100 名+追加料理等)	¥672,820
事後振込み: 懇親会費(企画委 1 名+国際委 6 名)	¥43,000	コーヒー・菓子代	¥44,469
明星大学より学会開催補助金	¥200,000	実行委員会事務費(文房具・郵送料等)	¥37,152
		事前振込み遅れ弁当代返金分	¥1,080
収入合計	¥2,630,560	支出合計	¥2,265,201
		残 金(学会への戻し分)	¥365,359

第 134 回社会政策学会大会参加費収入額内訳

日付	登録状況	登録数	過払い返金額	参加者区分変更	参加費事前納入者数
6月2日	振込: 事前納入(一般)	153 名	0		
6月2日	振込: 事前納入(学生)	17 名	0		
6月3日	現金返金: 名誉会員の過払い	-1 名	-¥2,500	名誉会員へ	事前納入者数: 152 名 (一般)
6月3日	現金返金: 学生分過払い(一般)	-1 名	-¥1,500 (返金手続き中)	学生分1名を引K	事前納入者数: 16 名 (学生)
日付	受付状況	参加者数	納入金額	振込・現金別納入	参加証納入額
6月2日	振込: 事前納入(一般)	152 名	@¥2,500×152 名 =¥380,000		
6月2日	振込: 事前納入(学生)	16 名	@¥1,500×16 名 =¥24,000		
6月8日	振込: 事後納入(一般)	1 名	@¥2,500×1 名 =¥2,500		
6月14日	振込: 事後納入(当日払予定学生)	1 名	@¥2,000×1 名 =¥2,000		¥408,500
6月3日	現金: 当日受付(一般)	76 名	@¥3,000×76 名 =¥228,000		
	現金: 当日受付(学生)	18 名	@¥2,000×18 名 =¥36,000		
	現金: 京王プラザH受付で(一般)	1 名	@¥2,500×1 名 =¥2,500		
6月4日	現金: 当日受付(一般)	26 名	@¥3,000×26 名 =¥78,000		
	現金: 当日受付(学生)	10 名	@¥2,000×10 名 =¥20,000	現金納入合計額 (131 名)	¥ 364,500
	名誉会員	4 名			
	招聘者(非会員・共通論題)	1 名			
	振込: 招聘者(非・国際交流委)	7 名			

	未納:非会員・登壇者	1名		
	参加者総数	314名	参加費納入合計額	¥773,000

一般:	256名	名誉会員・招聘者:	12名	
学生:	45名	参加費未納・登壇者:	1名	
参加費納入者	301名	参加費なし	13名	参加者総数:314名

第134回社会政策学会の参加者数と参加費納入額納入額

入金種別	参加人数	参加費納入額
一般会員	256名	¥691,000
学生会員	45名	¥82,000
名誉会員	4名	0
招聘者	8名	0
不明非会員(登壇者)	1名	0
	314名	¥773,000

参加費会計

入金種別		支出額
事前振込み分より学会へ	@¥2,500 × 152名	¥380,000
	@¥1,500 × 16名	¥24,000
事後振込み分より学会へ	@¥2,500 × 1名	¥2,500
	@¥2,000 × 1名	¥2,000
当日受付分より学会へ	@¥3,000 × 102名	¥306,000
	@¥2,000 × 28名	¥56,000
	@¥2,500 × 1名	¥2,500
過払い返金分(2名分)	@¥2,500 × 1名 + @1,500 × 1名	-¥4,000
	参加費合計額	¥769,000

4. 選挙管理委員会報告

第35期(2018-2020年期)役員選挙の結果について、以下のとおり、報告する。

選挙は2017年9月13日(水)に公示を行い、有権者による投票用紙の郵送によって行った。投票の締切日は2017年10月13日(金)(必着)とし、9月13日～10月13日に選挙管理委員会(株式会社ワールドプランニング内 社会政策学会事務センター気付)へ届いたものを有効とした。

開票作業は2017年10月27日(金)に選挙管理委員会が

愛知学院大学にて行った。有権者数1188名、投票者数149名、投票率12.5%であった(締切後に届いた10名の票は無効とした)。開票の結果、同数であった場合は、規程にしたがって抽選で決定した。

<開票結果>

選出幹事(20名)および会計監査1名

■北海道・東北ブロック（定員 2 名）

（当選）熊沢 透 28 票
戸室 健作 13 票
（次点）松本伊智朗 7 票
※上原慎一・小笠原浩一と同数のため抽選で決定

■関東・甲信越ブロック（定員 9 名）

（当選）阿部 彩 30 票
大沢 真理 15 票
禹 宗杭 15 票
遠藤 公嗣 14 票
鬼丸 朋子 14 票
榎 一江 13 票
兵頭 淳史 12 票
布川日佐史 11 票
岩永 理恵 10 票
※首藤若菜と同数のため抽選で決定
（次点）首藤 若菜 10 票

■東海ブロック（定員 2 名）

（当選）玉井 金五 16 票
上村 泰裕 15 票
（次点）水野 有香 6 票
※中澤秀一と同数のため抽選で決定

■関西・北陸ブロック（定員 5 名）

（当選）吉村 臨兵 26 票
杉田 菜穂 25 票
埋橋 孝文 13 票
所 道彦 12 票
伊藤 大一 11 票
（次点）居神 浩 10 票
※久本憲夫と同数のため抽選で決定

■中国・四国・九州ブロック（定員 2 名）

（当選）垣田 裕介 23 票
石井まこと 20 票
（次点）萩原久美子 8 票

■会計監査（定員 1 名）

（当選）平岡 公一 11 票
（次点）阿部 誠 10 票

以上

選挙管理委員会

藤原千沙(委員長)、郭芳、金鎔基、鶴田慎人、松本由美

5. 社会政策学会賞候補作の推薦(自薦・他薦)のお願い

新たな学会賞選考委員会が、10月29日に発足いたしました。選考委員会では、2018年1月より第24回学会賞の選考を開始いたします。

つきましては、学会会員のみなさまに候補作の推薦をお願いいたします。自薦・他薦は問いません。外国語著書も選考対象に含みます。

候補作の条件は、表彰規定第3条および第4条に基づき、本学会に3年以上継続して在籍している会員によって、2017年1月1日から同年12月末日までの間に公刊された著書です。

幹事会と学会賞選考委員会では、書籍データベース等を活用して、会員のみなさまの日本語の著書リストを作成して選考の際に利用していますが、100%確実に会員の著書すべてを拾い上げるのは難しいのが現状です。また、外国語の著書については、原則として、推薦していただいたもののみを選考の対象としています。

つきましては、とくに、会員のみなさまが著書を2017年中に刊行された場合は、ぜひとも、候補作の「自薦」の形で、お知らせいただくようお願いいたします。これらの著作リストと推薦作品は秋季大会の書評分科会で取りあげる図書の選定にも活用させていただきます。

推薦は、以下の要領で、封書が電子メールにてお願いいたします。

また、候補作の現物寄贈にもご協力いただければ幸いです。

1. 締切と宛先 2018年1月20日必着
社会政策学会賞選考委員長 岡本英男 宛
郵送先：〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34
東京経済大学
メールアドレス：okamoto@tku.ac.jp

2. 電子メールの場合は、件名を「社会政策学会賞推薦」としてください。
電子メールの場合、年末年始を除き数日以内に受領確認の返信をお送りします。

3. 以下の事項を明記して下さい。①と②は必須、③は任意です。
①推薦者のお名前、ご所属、連絡先
(自薦の場合は、電話番号、電子メールアドレスを必ず明記してください)
②候補作の著者名、書名、出版社、出版年
③推薦理由

なお、他薦の場合、「本学会に3年以上継続して在籍している会員」であるかどうかを確認していただく必要はありません。こちらで確認いたします。

以上、候補作の推薦方ご協力のほどよろしくお願いいたします。
学会賞選考委員会委員長 岡本英男

6. 2017 年度臨時総会報告

2017年10月28日(土)の17時15分から愛知学院大学・名城公園キャンパス・キャッスルホール1202教室において、社会政策学会会則第26条に基づき、2017年度臨時総会が開催された。議長に鷺谷徹会員が選出されたのち、配布資料に沿って次の通り議事が進行した。

1. 重点事業の企画について

遠藤代表幹事より、重点事業として、英文ニューズレター刊行事業の実施計画の提案があった。名称はJASPS Bulletinとし、電子版(PDFファイル)で刊行すること、発行頻度は年2回(9月と3月)とし、創刊号は2018年3月とすること、掲載記事は、本学会の活動や研究動向、大会のプログラム・英文報告要旨とし、関連した外国の学会や研究機関、研究者へ送付すること、編集体制については、本年度は平岡幹事を中心に担当し、次年度以降については、今年度の状況のみを、適切な体制を整えることとしたいとの提案であった。この提案は、拍手にて承認・議決された。

2. 日本学術協力財団の賛同会員としての加入について

遠藤代表幹事より、当財団が『学術の動向』を刊行していたが、政府による刊行費補助が打ち切られて資金切れとなったこと、そして当財団が刊行を継続するために、賛同会員(団体会員)を募っていることの説明があり、本学会としては、賛同会員として加入(年会費5万円)することで、『学術の動向』の継続刊行を支援したいとの提案がなされた。この提案は、拍手にて承認・議決された。

3. その他

遠藤代表幹事より、会員の年齢構成についての分析(山縣幹事による分析)の紹介があり、20歳代と30歳代の会員の数が少ないという情報の周知と若手の入会を促す対策の必要性の周知がなされた。後者の対策に関連して、春季企画委員会の榎委員長より、大会において、出版社を招き、博士論文発表会を開くことで、刊行の機会としたいという企画の紹介があり、詳細は幹事会で審議し、学会のホームページやニューズレターにてお知らせするとの情報提供があった。

7. 会員状況の分析

会員状況の分析

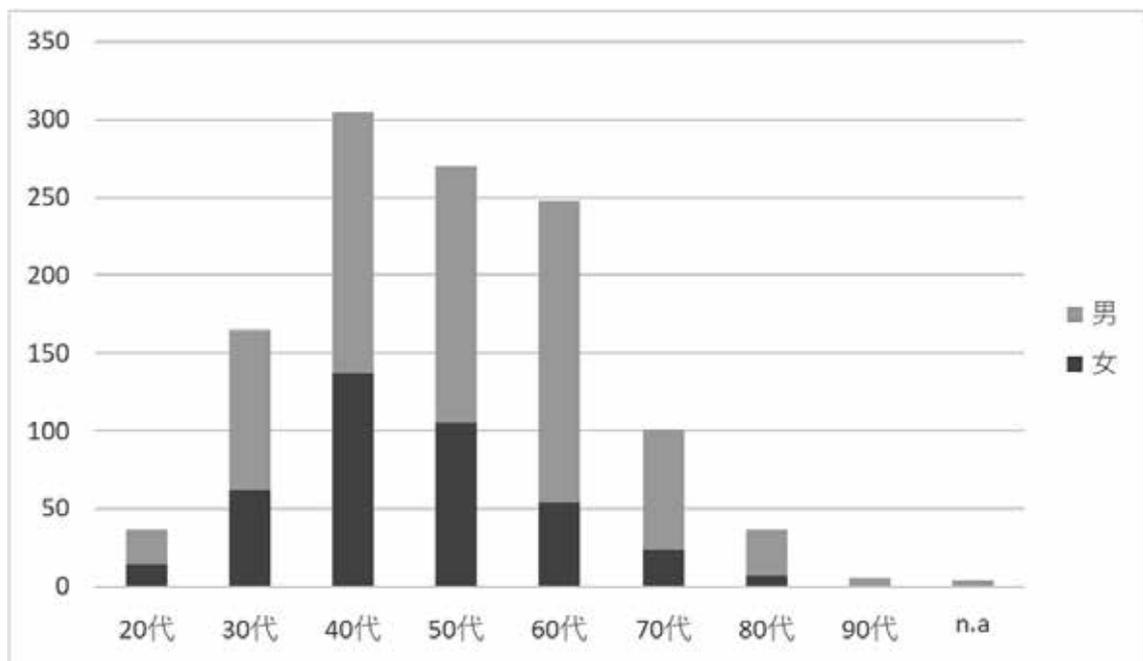
遠藤公嗣

2017年3月31日現在の会員について、学会本部でいくつかの分析をおこないました。その結果から、男性会員769名、女性会員404名について、年齢階層別の分布のみを表示します。

ア)40代会員男女計305名に比較して、30代会員男女計165

名は、やや少なめです。20代会員男女計37名はさらに少なくなります。この現象の1つの理由は、日本の人口構造そのものの特徴(30代から若い世代で、若い年齢ほど年齢別人口が激減していく)の反映でしょう。この人口構造の特徴にもかかわらず、会員数を将来的に維持し増加させることは、学会活動にそれなりの工夫が必要でしょう。

イ)年齢が上の世代では男性会員の比率が高いですが、若い世代ほど、会員数の男女差が少なくなる傾向にあります。



8. 第 13 回社会政策国際論壇の報告

第 13 回社会政策国際論壇（中国 南昌市）に参加して 遠藤公嗣

堅田香緒里会員と李蓮花会員と私は、中国社会科学院社会政策研究専門委員会の招待で、8月19日に南昌市で開催された第13回社会政策国際論壇で研究発表をおこなった。昨年の国際論壇は、中国側の事情により直前で開催が中止され、招待を受けて発表予定だった堅田会員らは渡航を中止したという経緯があった。そのため、今回の国際論壇が順調に開催され研究発表がおこなわれることは、中国側にとって重要なことはもちろん、中国側と当方の社会政策学会との友好関係にも重要なことであった。

今回の国際論壇では、外国からの招待発表者は約10人であった。私は、昨年来の日本の「同一賃金」議論について発表した。興味深い各発表者の発表内容については、紙幅の都合で省略したい。晩餐会の席では、前理事長の楊団氏からあらためて昨年の不手際の遺憾が私に述べられ、友好関係の持続発展を約束した。新理事長の関信平氏とも言葉を交わすことができた。今回の国際論壇は友好関係の確認では成功であり、会議としても〈ほぼ成功〉したといつてよいと思う。

〈ほぼ成功〉と評したのは、遅刻・欠席した外国からの招待発表者が数人いたからである。主な理由は、国内航空便の遅延・欠航と思われる。諸事情により、今夏の中国ではこれが常態化している。私たちも無縁でなく、私は2時間遅れ到着で、

李会員は5時間遅れ到着だったが、両人は19日朝から出席できた。ところが堅田会員は、欠航で北京空港近くの高級ホテルに自前で宿泊することになり、30時間遅れの19日夕刻到着となってしまい、最後の発表者となった。国内航空便の遅延・欠航に水をさされた今回の国際論壇であった。

学会は交流の場でもあり、それは国際論壇も例外でない。これについて私的感想を述べることをお許し願いたい。

南昌市や、その南西にある井崗山市は、革命故地である。今回、私は関連地を見学する機会を得た。その話を晩餐会の席で会った旧知の熊躍根氏（通称クマさん）にしたところ、同氏は井崗山市生まれとのことで、私は非常に驚いた。また帰国日の朝食時に、招待発表者の1人である Ito Peng 氏に呼び止められ長話をした。同氏は社会政策学会第101回大会（立命館大学、2000年開催）共通論題発表者の1人であった。Ito との名は、やや難しい本名でなく、子供のときの日本在住中に学校でこう呼ばれていて、それから通称とするようになったとのことであった。

20日開催の中国語セッションの中国人発表者に、明治大学大学院情報コミュニケーション研究科2017年3月修士卒業者がいて、日本語で言葉を交わした。また大阪経済大学で博士学位を取得し、現在は南昌市の江西農業大学専任講師である参加者とも、日本語で言葉を交わした。日中間は近く、意外な出会いがある。

9. 2016-2018 年 期 幹 事 会 報 告

第 10 回 幹 事 会 議 事 録

日 時：2017 年 10 月 27 日（金曜日）14:00～17:20

場 所：愛知学院大学・名城公園キャンパス・アガスタワー3階
多目的室 1

出 席：阿部（誠）、居神、上原、榎、遠藤、鬼丸、垣田、熊沢、
杉田、鈴木、玉井、塚原、戸室、久本、藤原、山縣

欠 席：阿部（彩）、埋橋、嵯峨、下平、相馬、平岡、宮本、渡邊

1. 重点事業の実施について

遠藤代表幹事より、重点事業として、英文ニューズレター刊行事業の実施計画の提案があった。名称は JASPS Bulletin とし、電子版（PDF ファイル）で刊行すること、発行頻度は年 2 回（9 月と 3 月）とし、創刊号は 2018 年 3 月とすること、掲載記事は、本学会の活動や研究動向、大会のプログラム・英文報告要旨とし、関連した外国の学会や研究機関、研究者へ送付すること、編集体制については、本年度は平岡幹事を中心に担当し、次年度以降については、今年度の状況のみで、適切な体制を整えることとしたいとの提案であった。この提案は了承され、総会の議案とすることも了承された。

2. J-STAGE への登載作業の進捗状況と欠号問題について

塚原事務局長より、学会誌『社会政策』の J-STAGE への登載準備は完了したとの報告があり、以前の学会誌（『社会政策学会年報』、『社会政策学会政策叢書』、『社会政策学会学会誌』）のいくつかの号の登載漏れ（欠号）についての説明があった。その原因については、数年前に本学会が PDF ファイルを収録した CD を送付したものの、当時の登載媒体である CINI の下請業者がそれを登載し忘れた、もしくは、本学会が CD を送付していなかった、などの可能性が考えられたが、本学会において送付を示した当時のメール記録が残っていないため、原因究明はできなかった。登載漏れの号については、複数の登載代行業者から見積もりをとり、適正な価格を提示した業者に登載を依頼し、本学会の費用で、できる限り登載漏れの号をなくしていくことで了承された。

3. 秋季大会企画委員会報告

熊沢委員長より、第 135 回大会の自由論題とテーマ別分科会でのフルペーパーの提出状況（提出率は 96.2%）、視覚障がい者への支援体制などについての報告があった。

4. 春季大会企画委員会報告

榎委員長より、共通論題は所得政策に関するテーマにしたこと、座長を駒村康平会員、報告者を山田篤裕会員、田宮遊子会員、高須裕彦会員、コメンテーターを小越洋之助会員とし、コメンテーターをもう1人追加したいことの提案があり、了承された。また、教育セッションは若手の研究を促進するようなテーマで継続していくことも了承された。自由論題とテーマ別分科会の共同研究者の取り扱いについても審議がなされ、共同研究の報告者は、会員の代表報告者および非会員でも可の共同報告者からなるものとし、複数で報告する場合には、プログラム上で登壇者(会員に限定)の名前に下線を引くことで了承された。

5. 2019年度の大会について

遠藤代表幹事より、2018年度については、周知のとおり春季大会は埼玉大学、秋季大会は9月中に北海学園大学で開催される予定であることの報告があった。2019年度の春季大会は、高知県立大学で開催することで了承された。

6. 学会誌編集委員会報告

居神委員長より、学会誌の発行に向けた進捗状況と投稿論文の採択状況についての報告があり、査読専門委員と編集委員の交代についての提案があった。欠員補充の5名の査読委員と1名の編集委員(宮地克典会員、すでに幹事会MLにて承認済)が了承された。「研究ノート」「書評リプライ」については、投稿があった際に対応するという事となった。なお、編集委員・査読専門委員協議会(6月4日開催)における意見(無断引用・剽窃対策、学会誌のインパクトファクター調査)が紹介され、意見の交換がなされた。

7. 学会賞選考委員会委員の選出について

遠藤代表幹事より、4名の委員の補充の提案があり、木村保茂会員、李蓮花会員、吉田健三会員、中島醸会員が新たな委員として了承された。

8. 国際交流委員会報告

鈴木委員長より、日韓社会政策交流の協定書のやりとりを電子メール(PDFファイル)を用いて行うことの提案があり、了承された。来年の春季大会にLERAのジャンニス・ベラス氏を招くことで了承された(宿泊費は本学会負担)。討論者として、非

会員の中窪裕也氏(一橋大学)に、本学会側の報告者として、柴田徹平会員に打診してみることで了承された。

9. 選挙管理委員会報告

藤原委員長より、次期の幹事、会計監査の選挙結果が報告され、了承された。

10. 広報委員会報告

垣田委員長より、本学会におけるfacebook導入の可能性についての問題提起があった。議論の結果、facebookでは、コメント欄を閉鎖できないことから、コメントを通じた非難、中傷や炎上のリスクがあるため、現状では、facebookの導入は難しいとの結論を得た。

11. 会員状況の分析について

遠藤代表幹事より、会員の年齢構成についての分析(山縣幹事による分析)の紹介があった。20歳代と30歳代の会員の数が少ないという結果が得られ、若手の入会を促す対策が議論された。大会にて、博士論文の発表会を行い、そこに出版社にも来てもらい、出版の機会を高める案が出され、実施する方向で了承された。

12. 会員入会について

7名の入会が了承された。

13. 次々回以降の幹事会について

次々回の幹事会(第12回)は、2018年2月4日(日)に明治大学駿河台キャンパスにて14時からの開催予定で、了承された。

第11回幹事会議事録

日時:2017年10月29日(日曜日)12:10~13:30

場所:愛知学院大学・名城公園キャンパス・アガルスタワー7階2725会議室

出席:阿部(彩)、遠藤、垣田、塚原、久本、藤原、平岡

欠席:阿部(誠)、居神、上原、埋橋、榎、鬼丸、熊沢、嵯峨、下平、杉田、鈴木、相馬、玉井、戸室、宮本、渡邊、山縣

1. 会員入会について

1名の入会が了承された。

10. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門分野
山野 良一	名寄市立大学保健福祉学部	社会保障・社会福祉
高西 圭太	首都大学東京大学院人文科学研究科	社会保障・社会福祉 ジェンダー・女性
二谷(中西) 智子	愛知学院大学経済学部	社会保障・社会福祉 生活・家族
惠羅さとみ	成蹊大学アジア太平洋研究センター	労使関係・労働経済

澤木 朋子	明治大学大学院経営学研究科	ジェンダー・女性
仲 修平	東京大学社会科学研究所	社会保障・社会福祉
浦川 邦夫	九州大学大学院経済学研究院	社会保障・社会福祉
パク ジェホ	首都大学東京人文科学研究科	社会保障・社会福祉

11. 訂正

- ・「Newsletter」前号(通巻 92 号)の「3. 第 23 回(2016 年度)学会賞選考委員会報告」にて、渡部あさみ氏の名前が、「渡辺あさみ」と誤記されていました。
- ・「Newsletter」前号(通巻 92 号)の「16. 承認された新入会員」にて、猿爪雅治氏の名前が、「橋爪雅治」と誤記されていました。